

巻 頭 言

取締役
千葉製鉄所副所長 大西 建 男



現在、我々はグローバル化、情報化の波の中で、21世紀を迎えようとしています。また、次の世代に確実に豊かな地球を渡すために、人や環境に優しい技術の要求も高まっています。この新しいニーズに応える企業活動が重要になってきています。

日本の粉末冶金用鉄粉の70%は自動車用の焼結部品に使用されています。先の10年間は、自動車の大型化や高級化のためのモデルチェンジなどにより、鉄粉を用いた焼結部品の自動車1台あたりの使用量が1980年の3kg/台から2.5kg増加しましたが、この10年間は、日本経済の変革もあって約1kgの増加に止まりました。しかし、内容は強度や耐久性、寸法精度の向上に加えて、造形性能の向上や製造の安定性、作業環境の向上など、粉末冶金本来の高い生産性をより活かすものに変化してきています。また、人や環境に優しい鉄粉も求められつつあります。当社は、このようなニーズに沿って、最適の鉄粉を供給する企業努力を続けています。その結果として、鉄粉の使用量が今後も着実に増加するものと考えています。

当社は、製鉄所で副生する高純度のミルスケールと微粉コークスを利用し、1966年にトンネル炉および仕上還元炉を建設して還元鉄粉「KIP255M」の製造販売を開始しました。1978年にはアトマイズ鉄粉も当社で開発した技術により生産を開始し、1991年には大型アトマイズ設備の建設を行いました。当社は、製鉄技術を最大限に活かして「還元鉄粉」と「アトマイズ鉄粉」をそろえた総合鉄粉メーカーです。

さらに、独自開発の「Cr系完全合金化粉」や、高強度化に対応した「部分合金化粉」を製造するとともに、黒鉛粉の偏析飛散が少なく作業環境の改善に適した「偏析防止粉（KIPクリーンミックス®）」などを製造しています。このほか、鉄粉の特性を活かした「カイロ用」「脱酸素剤用」に加えて、資源のリサイクルで需要が伸びている「化学反应用」の鉄粉も供給しています。1999年には「KIPクリーンミックス」の増加する需要に対応するために設備増強を行うなど、お客様のニーズにお応えするよう、今後とも一層の努力をいたします。

本特集号では、電子機器の「ノイズフィルター」など、情報化の流れの中で需要が伸びている電磁気用途に適した「MG270H」、偏析防止粉の特性をさらに活かして、焼結部品の生産性向上や焼結炉体の汚染防止などの環境改善に寄与する製品に発展させた「Cu偏析防止粉」、「ワックス系偏析防止粉」の新製品について紹介しております。

粉末冶金分野の発展のために、多方面からのご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。